



KEIO UNIVERSITY
FACULTY AND GRADUATE SCHOOL OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

STUDY ABROAD PROGRAMS



海外留学プログラム

慶應義塾大学 理工学部・理工学研究科

2022



It's a small world!

世界への扉を開けよう！

慶應義塾の理念に示されているように、理工学部においても創立者 福澤諭吉の「実学」の精神に基づき学際的・国際的な教育・研究を実施しつつ、学問によって新しい価値を創造し、変化の時代に対応しうる人材を育成することで、よりよい未来社会に向かって広く社会に貢献することを目指しています。この理念の下、国際的な感覚と視野を広げることのできる海外留学プログラムは大変重要な位置付けにあると考えています。留学プログラムでの体験を通じて滞在国独自の文化や考え方を学び取ることができることはさることながら、こうした学びにおいては、国際的な視野を広げると同時に、物事に対する多様な見方が修得できると考えています。コロナ感染症の影響で、海外留学はもちろんのこと、様々な学内イベントをはじめキャンパスにおける学生生活は残念ながらコロナ感染拡大の懸念を踏まえ、大きな制限を受けることとなりました。授業も対面ではなくオンラインでの実施を余儀なくされてしまいました。しかしながら、こうした困難な状況においてこそ、ライフスタイルが大きく変わるパラダイムシフトが必要と考え、世界各国でも様々な対応が行われています。バーチャルな学びでは代え難く、モビリティでしか得られない海外留学における重要性は揺るぎないものであると考えています。

理工学部では留学の醍醐味を実感するためのプログラムをいろいろと用意しています。例えば日本の他大学に先駆けて、慶應と海外の二つの大学の学位が同時に取得できるダブルディグリープログラムを設置しました。その他の協定校への交換留学も、計画次第では留学期間を含めた4年間で(すなわち留年することなく)慶應義塾大学を卒業することが可能になっています。留学先や制度に関する相談は、いつでも矢上キャンパス学生課国際担当 (ic-yagami@adst.keio.ac.jp) で受け付けています。

世界への扉は大きく開いています。後は君たちがチャレンジするのみ！日本的な世間の狭さから脱却して、"It's a small world" と日々実感できる人間に成長できることを期待しています。

理工学部長・理工学研究科委員長 村上 俊之

Contents

STEP 1	自分に合った留学を考えよう！	3
STEP 2	理工学部における留学プログラムを知ろう！	5
	1. ダブルディグリープログラム	
	2. 理工学部が実施・紹介する短期プログラム (夏季・春季)	
	3. 理工学研究科 交換研修	
	4. 国際センター主催 派遣交換留学	
	5. 国際センター主催 短期海外研修プログラム (夏季・春季)	
	6. その他のプログラム	
STEP 3	語学の実力を知ろう！磨こう！	11
FAQ		13
奨学金について		14
留学体験記		15

矢上キャンパス学生課国際担当

TEL : 045-566-1468 E-MAIL : ic-yagami@adst.keio.ac.jp

理工学部・理工学研究科に在籍する学生向けに、留学や国外研修、奨学金等に関する情報提供、留学相談を行っています。ホームページもあわせてご覧ください。また、春学期に「留学フェア」を日吉キャンパスにて開催しています。

国際センター https://www.ic.keio.ac.jp/keio_student/

矢上キャンパス学生課国際担当 <https://www.st.keio.ac.jp/students/ic/index.html>

留学情報メーリングリスト

希望者に対して、留学や国際交流に関する情報をEメールにてお知らせしています。

- ・ダブルディグリープログラムや協定校担当者による留学説明会案内
- ・短期海外研修プログラム募集情報
- ・国際交流イベントなどの案内 他

登録を希望する方は、以下の留学情報メーリングリスト登録フォームより登録してください。



<https://forms.gle/revRwTaPmDticoeH7>

STEP 1

自分に合った留学を考えよう！

ここでは留学の目的を整理し、あなたに適した留学プログラムを選び、準備のスケジュールを立てるための大まかな説明をしています。

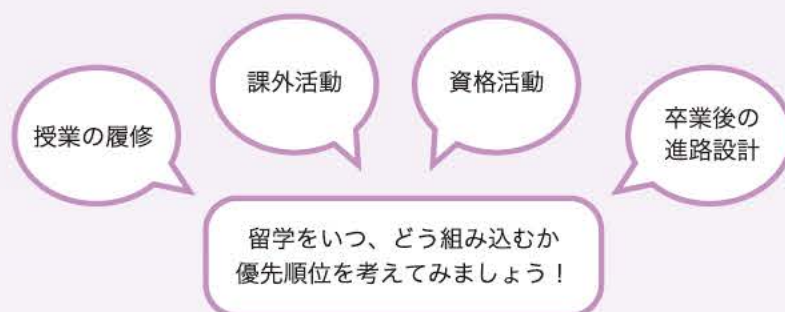
皆さんは、どの国・どの大学へ行ってみたいですか？
どのくらいの期間で、どんな勉強をしたいですか？
海外の大学で学位を取得することも視野に入れていますか？
留学することによって、学業以外にどんなことを身につけたいですか？
また、留学経験を今後のキャリアにどのように活かしたいと思っていますか？

留学に興味はあるけれど、どうすれば実現できるのか、どんな準備が必要なのかわからないという塾生も多いかと思います。

留学するには、まず日本での入念な準備が欠かせません。留学に関する情報収集のほか、動機・目的を明確にし、語学試験に向けて準備を進めることも必要です。このパンフレットでは、理工学部生が卒業までに「留学」を実現するためのさまざまな道筋を整理し、わかりやすく説明しています。これらの情報を大いに活用し、早い時期から少しずつでも準備を進め、可能性を広げていきましょう。

1-1 大学生活の計画を立ててみる

まずは留学を意識した大学生活の計画をたててみましょう。



1-2 留学に関する情報を集める

留学といっても形態は様々です。理工学部学生課国際担当では、随時窓口にて留学相談に乗っています。また、ウェブサイトでは、各プログラムの募集要項など、本パンフレットに載せきれない内容を掲載しています。派遣生の留学報告書のほか、海外留学のための奨学金も掲載していますので、ぜひ一度ご覧ください。

理工学部学生課国際担当ウェブサイト

<https://www.st.keio.ac.jp/students/ic/>

どのような留学スタイルが自分にあっているか考えるのには、次のページの「期間・目的別 理工学部生向けプログラム」も参考にしながら、自分の計画にあうプログラムを見つけてみましょう。

1-3 目的・プランを考える

留学を具体的に考えていく際、大きなポイントとなるのが「なぜ留学したいのか」「何を学びたいのか」「将来にどう生かしたいのか」という三点になります。

上記の三つの問いかけに対する自分なりの答えを思い浮かべつつ、以下の表を参考にしながら最適なプログラムを見つけてみましょう。

期間・目的別 理工学部生向けプログラム

期間	目的	学部生が参加できるプログラム	大学院生が参加できるプログラム
1年以上	学位を取得	DD	DD JEMARO DD ルノー《海外進学》
半年～1年	リサーチ・フィールドワーク	IAESTE	塾派遣 研究研修 IAESTE
	コースワーク	塾派遣 《私費留学》	塾派遣 学習研修
～半年	リサーチ・フィールドワーク	IAESTE	IAESTE 研究研修
	コースワーク	《私費留学》	学習研修
夏・春休み	海外体験・語学	アーヘンSS 国際センター短プロ INNOVATE INTRAX IAESTE IMTアトランティック ECN SAF 《外部団体主催の語学研修等》	国際センター短プロ INNOVATE INTRAX IAESTE IMTアトランティック ECN 《外部団体主催の語学研修等》

注) リサーチ・フィールドワーク：研究テーマを掘り下げたり、研修に参加する留学
コースワーク：大学の講義を履修することを主とした留学
：慶應主催のプログラム ：外部の団体が主催する慶應理工学部生向けプログラム等

長期留学の準備には最低でも1年から1年半準備期間が必要です。チャンスを逃す事のないよう、早めに計画に着手するようにしましょう。また、短期プログラムの場合、夏休み期間中に実施されるものは4月頃、春休み期間中に実施されるものは11月頃に締め切られるものが多いので、早めに情報を確認するようにしてください。

1-4 語学を準備する

プログラムにもよりますが、多くの場合、応募する時点で一定以上の語学力がある事が求められます。また語学力はそれを客観的に示す試験のスコアを持っている事が必要です。例えば慶應義塾派遣交換留学で英語圏の大学への留学を希望する場合は、TOEFL iBT 80点～100点、IELTS 6.0～7.0のスコアが標準的な条件になることがあります。英語が得意でなくとも、目標を立て勉強を続ければ必ず伸びます。早速今から勉強を始め、語学試験も受けてみてください。試験の申込みを行ってから、試験を受け、スコアが手元に届くまで一定期間かかりますし、試験を何度か受けるうちにスコアが伸びるとも言われています。長期留学を目指し、まずは短期の語学留学に参加することもできるでしょう。いまから留学先での自分をイメージしながら、時間を作って力をつけていきましょう。語学力を伸ばすための具体的な方法については、11・12ページを参考にしてください。



STEP 2

理工学部における留学プログラムを知ろう！

1. ダブルディグリープログラム

理工学部には、本学と海外の一流校の必要課程を修了することにより、本学および派遣先の大学から同時に学位を取得できるダブルディグリープログラム (DD) という制度があります。世界を舞台に国際的エンジニアとして活躍することを目指す人にはお勧めのプログラムです。

1-1 学部生対象ダブルディグリープログラム

学部1、2年次を慶應、3、4年次をフランス、そして再び修士課程を慶應で修める事により、本学大学院理工学研究科から修士(理学または工学)、派遣先機関から工学修士相当の学位がそれぞれ授与されるダブルディグリープログラムです。本プログラムは、日本・フランス 双方で学生生活を送ることを可能とするものであり、その最大の目的は、現代社会に必要とされる国際的な視野と、深い専門知識とを併せ持つ国際エンジニアを育成することにあります。

パートナー校	Groupe des Ecoles Centrales (Lille, Lyon, Marseille, Nantes, CentraleSupélec)
期間	理工学部1・2年次の学習を終えた後、3年次の夏からパートナー校へ2年間留学します。帰国後、理工学研究科に入学して修士課程を修了します。
対象	理工学部生(応募時学部2年生)
学位	慶應義塾大学理工学研究科の修士(理学または工学)およびパートナー校からも工学修士相当のエンジニア資格

1-2 大学院生対象ダブルディグリープログラム

本学大学院理工学研究科修士課程1年春学期科目の履修を終えた後に秋学期から派遣先教育機関へ1年半留学します。1年半後の4月に慶應へ戻り修士課程2年に進学し、1年後の3月に修士課程を修了すると本学の修士号と同時に派遣先教育機関からも工学修士相当のエンジニア資格が授与されます。修士課程入学から留学期間を含む合計で修士課程3年間のプログラムです。派遣先では英語もしくはパートナー校指定の言語で開設されているコースを受講します。

パートナー校	※詳細は、国際担当ウェブサイトを確認してください。
期間	修士課程1年の秋学期からパートナー校へ1年半留学し、帰国後、修士課程2年に進学し、修士課程を修了します。
対象	理工学研究科修士課程に入学を予定する者(応募時学部4年生)
学位	慶應義塾大学理工学研究科より修士(理学または工学)およびパートナー校より工学修士相当のエンジニア資格

1-3 Japan-EU 高度ロボティクスマスタプログラム(JEMARO)

本学大学院理工学研究科と欧州の三大学の連携で設定されたロボティクスに関する初の修士課程のダブルディグリープログラムで、国内では本研究科が唯一実施しているものになります。各年9月のスタートとなり、1年目は欧州三大学の何れか、2年目は慶應に在籍します。このプログラムは、日欧それぞれの指導教員の元、国際共同研究を中核としたカリキュラムであり、英語による科目履修と所属する研究室にて研究活動を行います。

パートナー校	【フランス】 Ecole Centrale de Nantes
	【イタリア】 University of Genoa
	【ポーランド】 Warsaw University of Technology

期間	修士課程1年の秋学期からパートナー校へ1年留学し、帰国後、修士課程2年に進学し、翌年9月に修士課程を修了します。
対象	理工学研究科修士課程に入学を予定する者(応募時学部4年生)
学位	慶應義塾大学理工学研究科より修士(工学または理学)およびパートナー校より工学修士相当の学位

2. 理工学部が実施・紹介する短期プログラム(夏季・春季)

夏休みや春休み中に、まずは海外へ第一歩を踏み出したい方へおすすめです。

2-1 理工学部主催プログラム

ドイツ Keio-Aachenサマースクール(理工学部主催)

理工学部と50年以上の交流の歴史を持つドイツの名門アーヘン工科大学の全面協力によって実現したプログラムです。ドイツ語およびドイツ文化に関する学習と、英語によるドイツの大学の研究を垣間見ることができるエンジニアリング入門講座を受講する短期研修です。

期間	8月中の約3週間	募集人数	20名	対象	理工学部生、ドイツ語の学習歴が1年以上の者
単位	総合教育科目「ドイツ語・エンジニアリング在外研修」(2単位)				

フランス ECNフランス語フランス文化研修プログラム(理工学部主催)

交流の歴史が長いECNでの語学研修は、慶應の学生に向けプログラムされたアットホームな環境でフランス語およびフランス文化について学ぶことができます。語学授業に加え、近郊の名所旧跡等を訪ねるエクスカージョンの企画もあり、フランスの歴史や文化、風土に対する理解を深めることができます。また、ホームステイにより、「生きたフランス感覚」も身につきます。

期間	2月初旬～3月中旬の約6週間	募集人数	8名
対象	全学部・全研究科、原則として学部2年生以上のフランス語学習経験者		
単位	総合教育科目「フランス語在外インテンシブ」(4単位)		

ドイツ Keio-Aachenスプリングスクール(理工学部主催)

理工学部と50年以上の交流の歴史を持つドイツの名門アーヘン工科大学の全面協力によって実現した、全学部・研究科生対象のプログラムです。ドイツ語の研修に加え、ホームステイや現地の学生との交流、フィールドトリップ等も多数あり、ドイツ文化への理解や知見を深めることができます。

期間	3月中の約3週間	募集人数	10名程度	対象	全学部・全研究科
単位	総合教育科目「ドイツ語・ドイツ文化在外研修」(2単位)				

グローバルリーダーシップセミナー

理工学部の専門的な教育に入る前に、世界に通じる国際的な素養(自己認識力・対話力・行動力・言語力・自律性)を体得するための基礎を養う場です。世界の様々な問題に関心をもち、自分が置かれている立場を広い視野で認識し、多様な価値観や文化を理解し、積極的に議論に参加できるようにします。

学期中に4つの異なるテーマについての講義を聞き、それについて日本語と英語で討論を行います。週2回(月・木)の授業で、週の前半が日本語での講義と議論、後半が同じテーマについての少人数での英語討論です。各テーマには3週間をかけ議論します。

なお、関連科目として「グローバルリーダーシップセミナー実地研修」があります。この「グローバルリーダーシップセミナー実地研修」の履修希望者が定員を越えた場合には、基本的には「グローバルリーダーシップセミナー」履修者を優先します。

募集人数	32名
対象	理工学部1・2年生。科目の趣旨に照らしてとりわけ意欲の高い少人数の有志を対象とします。春・秋学期ともに内容は同じで、いずれか一方の学期にのみ履修できます。
履修上の注意	春学期・秋学期に関わらず、履修に興味のある人は4月のガイダンスに必ず出席してください。この科目は選抜制のため履修登録取消制度の対象外です。また履修が認められた場合には、必ず履修しなくてはなりません。

グローバルリーダーシップセミナー実地研修

長期休暇中(夏休み、春休み)に海外や日本の大学と協力して、2泊3日程度の合同研修を海外ないし日本でを行います。海外の大学生や日本の他大学の学生たちと共に講義を受け、それを踏まえたグループプロジェクトやグループプレゼンテーションを行います。

パートナー校	夏：高麗大学(韓国)、延世大学(韓国)、早稲田大学 春：淡江大学(台湾)
募集人数	15名前後(詳細は募集要項を確認して下さい。)
対象	理工学部1・2年生

フランス ECマルセイユ春季講座(理工学部主催)

協定校のEcole Centrale Marseilleでの春休みを利用した語学研修で、2019年度に新設されたプログラムです。本学の他、ECマルセイユの他の日本協定校の理工学部生を対象にプログラムされたアットホームな環境で、フランス語、フランス文化について学ぶ事ができ、scientific activitiesがあります。また、ホームステイにより、「生きたフランス感覚」も身につきます。

期間	3月中の約3週間
募集人数	2・3人程度
対象	理工学部生

2-2 協定校等主催プログラム

SAF 海外大学サマーセッション短期留学

理工学部がThe Study Abroad Foundation (SAF)と共同で開発・運営をしている留学プログラムです。参加者は、理工系分野に強いアメリカの名門大学のサマーセッションに参加し、現地の学生また世界中から集まってくる留学生と一緒に勉強をします。夏季休校期間(8～9月中旬)、もしくは、学部3年次に4学期制を実施している学科においては春学期後半(6～7月)を利用して留学することも可能です。

SAFによる本プログラム説明会および出願ガイダンスが、定期的に実施されています。

派遣先	カリフォルニア大学バークレー校 / ロサンゼルス校 / サンターバーバラ校
期間	約6週間～12週間(大学・プログラムによって異なります)
単位	申請により派遣先大学で取得した科目単位が認定される可能性があります。
HP	http://japan.studyabroadfoundation.org/apply_now/keio_science.php https://youtu.be/VX-MXBKZTUs

フランス IMTアトランティック語学研修

理工学研究科との協定に基づき、フランスのテレコム系のグランゼコール、IMTアトランティックにおける語学研修です。世界各国から集まる学生とともにマルチカルチュラルな環境でフランス語を学ぶことができます。両校の友好関係に基づき、慶應の学生には割引料金が設定されています。

期間	8月中の3週間
募集人数	5名程度
対象	学部生、大学院生

東義大学韓国語研修

東義大学との間の交流協定に基づき、2011年度より語学研修をスタートしました。東義大学は釜山市の中心街からも程近くに位置する私立大学です。10の学部からなる総合大学で、18,000人の学生が学んでいます。本語学研修は、初心者向けの韓国語研修の他、韓国文化に関する社会科見学等も行われます。

期間	2月中の約2週間
募集人数	10名程度
対象	学部生、大学院生

INTRAX海外インターンシッププログラム(6月～9月)

Intrax Cultural Exchange社が本学理工学部生向けに企画運営しているプログラムで、米国(主にサンフランシスコ近郊およびニューヨーク近郊)やシンガポールの現地企業でインターンシップを行います。海外において本格的な就業経験を積むことができるインターンシッププログラムは、国際社会で活躍するための広い視野や技能を獲得する絶好の機会です。卒業後の就職活動においても高く評価される実務経験となります。

対象	4学期制実施学科所属の理工学部3年生(出発時)
HP	https://internships.intraxjp.com/ https://www.youtube.com/watch?v=QX8DpmUSKa4

IAESTE 国際インターンシップ

理工系学生のための国際インターンシップを仲介する社団法人日本国際学生技術研修協会(IAESTE、通称「イアエステ」)による国外インターンシップです。国外の企業または大学、研究機関にて職業体験を行います。IAESTEの派遣生認定試験を受けた上で、認定試験、専門知識、研修内容などを考慮し選考・マッチングが行われます。

期間	先方との話し合いにより、2ヶ月～1年間(多くは2～3ヶ月間)
対象	学部3・4年生、大学院生
単位	申請により「学外特別研修(インターンシップ)」の単位が認定される可能性があります。
HP	http://www.iaeste.or.jp

INNOVATE -International Technology, Innovation, and Leadership Conference-

世界を舞台に活躍するアジアの国際的な先端企業のビジネスリーダーを訪ねて見聞を広める海外企業訪問研修プログラムです。アメリカのピッツバーグ大学が主催し、慶應を含む理工系を学ぶアメリカおよびアジアの学生の中から選抜された派遣生たちが、国境を越えた交流を行い、グローバルな視野を広げることができます。

期間	3月初旬～中旬の約2週間
募集人数	5名程度
対象	学部3・4年生、大学院生

3. 理工学研究科 交換研修

理工学研究科の交換協定に基づく、理工学分野に特化した研修プログラムです。派遣先の教員との事前打ち合わせを経て、海外の大学で研究生活、理工学専門の勉強を希望する方にお勧めです。理工学研究科修士課程生(韓国・梨花女子大学のみ学部生)を対象としており、研究テーマ・受講科目や、出願および派遣時期・期間(約3ヶ月～12ヶ月)は個々の大学により異なりますので、希望する派遣先のWebサイトを合わせて参照してください。派遣先での授業料は免除されます。

指導教員の下で研究を実施する「研究研修」、協定校で開講される授業を受講する「学習研修」の2つのプログラムがあります。派遣先により条件が異なりますが、自分の専門分野に特化させた留学を自ら作り上げることができ、また比較的短期間から留学できるため、理工学研究科修士課程生にはお勧めのオーダーメイドの留学といえるでしょう。

研究研修	指導教員の下で研究を実施するプログラムで、研究を進める上での十分な英語能力および研究能力が必要です。大学院生は、専攻の審査を経た上で「国外研究」として単位認定申請が可能です。
学習研修	1学期あるいは1年間、協定校で開講される授業を受講するプログラムで、十分な言語能力および優れた学業成績が要求されます。留学先での取得単位は、学部または専攻の審査を経た上で単位認定申請が可能です。
派遣先	ベルギー・デンマーク・フランス・ドイツ・イタリア・ポーランド・ポルトガル・スペイン・スウェーデン・スイス・韓国・中国・台湾の各協定校
HP	https://www.st.keio.ac.jp/students/ic/exchange/
期間	3～12ヶ月
人数	各校若干名
対象	大学院生・理工学研究科修士課程入学予定者(出発時大学院生) ※韓国・梨花女子大学のみ学部生

4. 国際センター主催 派遣交換留学

この制度は、本学が外国の大学との間で交わした協定に基づいて実施するプログラムで、採用された学生は1学年間海外の協定校にて専門の勉強をしながらキャンパスライフを経験することができます。手続きや協定校の詳細は国際センターが発行する「留学のてびき 派遣交換留学生募集要項」をご覧ください。また、世界約140校の協定校の中から留学先を選ぶ際は、理工学部学生課国際担当で配布する「理工学部生にお勧めの大学一覧」やWebサイトに掲載されている過去の参加者からの報告書を参考にするとよいでしょう。授業期間中は、日吉キャンパスで派遣交換留学に参加した学生による留学個別相談も実施しています。

期間	1学年間
募集人数	各校若干名
対象	学部・大学院生
単位	留学先で取得した単位は、学部/研究科の教授会/研究科委員会の承認があれば、学則に定められた範囲内で認定されます。

5. 国際センター主催 短期海外研修プログラム（夏季・春季）

国際センターでは、全学部・全研究科在籍生を対象として（一部、学部生のみ対象）、夏季・春季休校期間中に短期海外研修プログラムを実施しています。講義やディスカッションのほか大学内の寮生活をはじめとする多彩な諸活動を通して様々な異文化交流を体験することで国際性豊かな学生を育成することを目的としており、短期間で集中して国外学習を経験できる貴重な機会となっています。

◆米国 ノートルダム大学夏季講座

研修日程	8月下旬～9月上旬の2週間	募集人数	10～16名(学部生のみ対象)
概要	日米ビジネス、そして米国の政治・社会に重点を置いた講義と関連施設への郊外学習、シカゴへのフィールドトリップを通じて専門科目の知識および英語能力の向上を目指します。		
単位	2単位		

◆米国 ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

研修日程	8月上旬～中旬の2週間	募集人数	25名
概要	全米でハーバードに次ぐ歴史を誇る米国東部の名門大学で、米国文化について幅広く学びます。グループワークやワシントンDCのフィールドトリップ、現地学生との交流機会も数多くあります。		
単位	4単位		

◆英国 ケンブリッジ大学ダウニング・コレッジ夏季講座

研修日程	8月上旬～9月上旬の4週間	募集人数	50名～62名
概要	前半2週は英語の集中研修、後半2週間は、科学、国際ビジネス、国際関係論の中からテーマを1つ選択して受講します(テーマは今後変更の可能性あり)。自分の専攻分野を越えて、知識を広げることが可能です。		
単位	4単位		

◆英国 オックスフォード大学リンカーン・コレッジ夏季講座

研修日程	8月下旬～9月上旬の2週間	募集人数	20名
概要	午前はディベートや関連トピックスに関する講義、午後はプロの演劇ディレクターが指導するワークショップが行われます。プログラム最終日にはシェークスピア演劇を通して上演します。		
単位	4単位		

◆フランス パリ政治学院春季講座

研修日程	2月下旬～3月下旬の4週間	募集人数	10名～20名
概要	EUの政治・経済・社会・文化、およびEUと諸外国との国際関係について、英語で学びます。フランス語を学ぶ機会やEU関連機関の見学などのフィールドワークも予定されています。		
単位	4単位		

◆オーストラリア シドニー大学春季講座

研修日程	2月下旬～3月中旬の3週間	募集人数	20名
概要	主にグローバルビジネスマネジメントと異文化コミュニケーションを学びます。英語研修や様々なアクティビティ、ホームステイなど、多角的にオーストラリア文化を体験できます。		
単位	2単位		

◆米国 タフツ大学春季講座

研修日程	2月下旬～3月上旬の2週間	募集人数	10名～15名
概要	フレッチャースクールの講師等から米国の対東アジア外交政策について学べます。大きな転換期を迎えた米国を体感しながら、国際関係学の最高峰で学べるチャンスです。講義をより深く理解する助けとなるよう、講義内容に沿ったワークショップも受けられます。		
単位	4単位		

◆シンガポール シンガポールマネジメント大学春季講座

研修日程	2月下旬～3月上旬の2週間	募集人数	10名～15名
概要	社会が抱える問題をどのように解決するか、その手法や社会的企業のモデルを学びます。シンガポールで理論を学んだ後、フィールドスタディのためアジアの第3国(2018年度はベトナム、2019年度はマレーシア)に数日間滞在し、再びシンガポールに戻ってまとめのグループプレゼンテーションを行います。		
単位	4単位		

6. その他のプログラム

◆延世・復旦・立教・慶應リーダーシップフォーラム

研修日程	8月上旬の1週間	募集人数	8名
概要	日中韓の学生が理解を深め、将来、協力関係を築きながらリーダーシップを発揮する力を養うことを目的としています。延世大学(韓国)、復旦大学(中国)、立教大学、慶應義塾大学(日本)から合計約50名の学生が参加し寝食を共にします。英語で共通テーマについて講義を受け、ディスカッション、グループワークなどを行うほか、文化交流イベントも行われます。プログラム費(渡航費などは除く)は幹事校が負担します。		
単位	なし		

◆協定校等主催 短期プログラム

本学の協定校等が開講する短期プログラムを国際センターホームページにて紹介しています。

HP	https://www.ic.keio.ac.jp/keio_student/short_prog_external/index.html
----	---

◆私費留学

ルノー財団奨学金プログラム

ルノー財団により運営されるフランス(主にパリ)において定められたカリキュラムに沿って専門教育を受ける留学プログラムです。詳細はホームページをご覧ください。

HP	https://www.ic.keio.ac.jp/keio_student/scholarship/renault_foundation.html
----	---

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、実施形態等に関して変更が生じる場合があります。プログラムの実施時期は、今後変更が生じる可能性があります。最新情報はWebサイトで確認してください。

STEP 3

語学の実力を知ろう！磨こう！

理工学部(外国語・総合教育教室) 井本 由紀 専任講師

3-1 実力を知り、目標を立てよう！

留学の準備にあたり、どのような外国語能力や異文化コミュニケーション能力を身につける必要があるのかを具体的に把握してみましょう。そして英語力やその他の外国語能力を測るテストを、自分の今の実力をを知るため、そして能力をのばすために有効活用していきましょう。

理工学部では、例年、G-TELP という、主に日常の英語力を問うテストを受けます。どのテストを受けるにしても、留学先で生活し、学んでいくために身につけていきたい外国語運用能力には共通するポイントがたくさんあります。外国語の運用能力のレベルを判断するために、そして語学の目標を定めるために、「CEFR(セファール)」という枠組みをまずは参照するとよいでしょう。CEFR はヨーロッパ共通参照枠のことを指しますが、労働と教育のために国境を超えて移動する人が多いヨーロッパで作成された、外国語の運用能力を知るための基準表です。いまは世界で広く使われています。

CEFR では、習得レベルを「A：基礎段階」「B：自立段階」「C：熟達段階」に分けています。それぞれをさらに 2 段階に分類して 6 段階に分けています。6 段階の各レベルを判定する基準を以下のように定めています。みなさんの英語の運用能力、あるいは英語以外の外国語の運用能力はこの表を参照すると、どのレベルにありますか？どのレベルまで習得できるようになりたいですか？自分で判定してみましょう。

CEFR	言語運用能力
C2	聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、業務上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細なテキストを作ることができる。その際テキストを構成する文句や接続表現の用法をマスターしていることがうかがえる。
B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
B1	仕事、学校、娯楽、で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。
A2	ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現を理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。
A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物など個人的情報について、質問したり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

CEFR の 6 段階レベルを、英語能力を測る主要なテストとも対応させながら、留学に必要な点数と養いたい語学力を把握していくこともできます。IELTS、TOEFL、英検、G-TELP など、それぞれの特徴や測るときに重視しているポイントがあるので、問題傾向を把握すると同時に、そのテストのホームページなどで、テストの趣旨、背景、測定基準をしっかりと調べるとよいでしょう。

CEFR	英検	IELTS	TOEFL iBT	TOEIC L&A / TOEIC S&W
C2		9.0 8.5		
C1	1 級	8.0 7.0	120 95	1990 1845
B2	準 1 級	6.5 5.5	94 72	1840 1560
B1	2 級	5.0 4.0	71 42	1555 1150
A2	準 2 級			1145 625
A1	3 級			620 320

※TOEIC L&R/TOEIC S&W については、TOEIC S&W のスコアを 2.5 倍にして合算したスコアで判定する。

3-2 語学力を磨こう！

目標を定めた後は、なるべく日々、英語あるいはその他の習得したい言語に触れることを心がけて、外国語に親しみましょう。英語に関しては、理工学部では必修クラス以外に、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの各スキルに特化した選択英語科目が日吉でも矢上でも履修できます。そのほか、日頃から次のような方法を取り入れることもできますね。

- リスニング：

自分の好きな洋画やドラマを英語音声で観たり、ニュースも英語で聞くようにしてみましょう。通学時間が長い人には各種英語リスニング学習アプリの利用やオーディオ・ブックを聴くこともおすすめです。
- スピーキング：

日吉キャンパスでは独立館地下一階のコミュニケーションラウンジで、留学生と交流する機会をつくることができます。その他、国際センターや GIC センターの設置科目では英語でアウトプットをしながら学べる授業が豊富にあり、特に国際センターの授業では留学生と出会い、共に学ぶことができます。語学力以外にも、多様な価値観や生き方に触れることで、異文化コミュニケーションの素養を身につけることを心がけましょう。
- リーディング：

自分の好きな分野(マンガ、推理小説、科学雑誌 etc.)の文章を英語やほかの外国語で読みましょう。メディアセンターの電子ジャーナルや電子書籍、データベースも充実しています。そのほか SNS で外国語の情報にもアクセスしましょう。海外から発信されるニュースにも触れることで、より多角的な視野が身につきます。
- ライティング：

外国語教育研究センター主催のアカデミック・ライティングのワークショップに参加し、アカデミック・ライティングのコンテストに応募してみましょう。

外国語の学習は、広い世界、異なる世界を知るための扉となります。知りたい、調べたい、行きたい、会いたい、実現したい、表現したいという自分の意欲・欲求を確かめ、テスト・スコアのための語学学習にとどまらず、大きな目標も設定するとよいでしょう。そのうえで、自分の特性と現状と目標に合う学習方法を見出し、大学のリソースも存分に活用しながら、実力を磨いていきましょう。

FAQ

海外留学に関するよくある質問

Q 外国語に自信がないのですが・・・

A 語学に 100%の自信のある人の方が稀でしょう。語学力を向上させたいから留学したいという方も多いでしょう。まずは、今の自分の力を客観的に知り、留学のチャンスをつかめるだけの語学力を磨きましょう。本冊子 STEP3 を読み、具体的なアクションをとってみてください。

Q 交換留学したいのですが、協定大学についてどのように調べたらよいですか？

A 毎年発行される「留学のてびき 派遣交換留学生募集要項」および国際センターのホームページをご覧ください。協定大学については、各大学ホームページより情報を集めてください。矢上キャンパス学生課国際担当では「理工学部生にお勧めの交換留学先一覧」の配布や留学を含んだ進路相談のために各学科の先生の紹介を行っていますので、まずは学生課国際担当 (ic-yagami@adst.keio.ac.jp) へご相談ください。また、大使館等で行う留学フェアに参加して情報収集するという方法もあります。

Q 取得してきた単位は卒業単位として認められますか？また、一年遅れずに、進級することはできますか？

A 取得してきた単位は卒業単位として認められることがあります。概ね次のような手続きが必要です。留学前に、留学先の大学のホームページで開講科目を確認し、履修計画を立てましょう。履修予定の科目を取得した場合には、理工学部設置学科専門科目あるいは専門基礎科目のどの科目として認定されるかを、学習指導副主任とよく確認しましょう。学部3年生で、帰国後遡及進級を希望している場合は、理工学部必修科目に相当する科目があるか、取得科目が認定されたら進級条件を満たすか、確認しましょう。単位の認定は、帰国後、学習指導会議で審議の上決定されます。なお、学部4年生は遡及卒業できません。詳しくは、学生課学事担当や学習指導副主任に相談してみましょう。大学院修士課程において留学する場合は、時期や期間により標準年限2年で修了することができます。詳しくは、学生課学事担当や学習指導副主任に相談してみましょう。

Q 学部3年生で留学した場合、卒業研究の研究室配属はどのようにになりますか？

A 遡及進級を希望する3年生は、履修科目の確認に加え、研究室配属について、学習指導副主任とよく相談するとよいでしょう。学期の途中に帰国すると、単位認定されて3年進級条件を満たし4年生に進級することができても、4年生の必修科目の卒業研究の着手に影響が出ます。このような場合は、例えば帰国までは留学先からメールなどで指導を受け、帰国後から研究室に通う、など自分が指導を希望する教員が受け入れてくれるのか、必ず確認してください。留学してから研究室配属の方法は、学科によって異なりますので学習指導副主任に相談してください。

Q 留学すると就職活動は不利になりませんか？

A 最近のニュースでも頻繁に取り上げられているように、社内の公用語を英語にしたり、新入社員の半数に留学生を採用したりするなど、国際化を見据えた大胆な取組を始める大手企業も増えています。そんな中、自分が留学経験で得たものや世界的な人的ネットワーク等を自信を持って就職活動の際にアピールする事ができれば、むしろ有利になる可能性も大いにあると言えます。また、海外にいても現地のキャリアフォーラムに参加したり、現地の日本人ビジネスマンに話を伺ったりなど、工夫次第で就職活動は可能でしょう。ただし、希望する職種によっては特定の就職活動が必要な場合がありますので、留学前に就職担当に相談するようにしてください。

Q 海外の大学院に進学をしたいのですが、どのように大学を探せばよいかわかりません・・・

A まずは研究室の先生に、自分の関心のある分野で著名な大学を聞いてみるとよいでしょう。または、自分が興味を持った論文を執筆した研究者が在籍する大学について調べてみるのも良い手段といえます。

奨学金について

留学費用は、留学先により物価が違いますし、同じ国でも地域や暮らし方により生活費は変わってきますので、費用をある程度抑えることは可能でしょう。過去の派遣生の報告書に費用が紹介されている場合がありますので、参考にしてください。

理工学部・理工学研究科では、海外学習を経験し世界に通じる人材となる在学学生を育てるために、「国際人材育成基金」が設立されました。本パンフレットに掲載されている留学プログラムに参加される学部生・大学院生が対象で、プログラム帰国後に申請となります。募集は春と秋にそれぞれ1回ずつ行われます。

支給金額はプログラムや年度によって異なりますが、過去の支給例は以下のとおりです。

- ・研究研修 : 20万円
- ・私費留学(1年間) : (語学)8万円(研究)15万円
- ・国際センター主催夏期在外研修 : 10万円
- ・ドイツ Keio-Aachen サマースクール : 20万円
- ・学部ダブルディグリー 1年目 : 40万円 2年目 : 40万円
- ・大学院ダブルディグリー 1年目 : 40万円 2年目 : 20万円

国際人材育成基金の詳細については、理工学部学生課国際担当のホームページをご確認ください。

<https://www.st.keio.ac.jp/students/ic/scholarship/kj.html>

その他、留学する学生へ向けた奨学金や学費についての情報は、国際センターのホームページにある奨学金のページに随時掲載しておりますので、活用してください。



留学体験記

アーヘン工科大学 2019年度 サマースクール派遣生
機械工学科 笠毛 徳太郎（派遣時 学部2年）

私は、ハリー・ポッターを始めとしたヨーロッパを舞台とするファンタジー作品が好きで、「いつか行ってみたい!」と考えていましたが、実際には、外国語を話した経験は無く、自分の知らない環境に行くことには強い抵抗がありました。しかし、1年生のときにアーヘンサマースクールに参加した友達の話聞き、このプログラムであれば、自分も参加できるかもしれないと思いました。

このプログラムは、夏休みの3週間を使って行われます。平日は基本的に1コマ3時間の授業が2コマあります。土日は授業がないため、観光などの自由時間に使えます。また、学校側が用意してくれたイベントが沢山あり、充実した日々を過ごせます。

授業は大きく2つに分かれています。まず、1つ目は、ドイツ語の授業です。ドイツ語の授業は、ネイティブの先生によって行われます。まず始めにクラス分けテストがあり、習熟度によって2つのクラスに分かれて授業を受けます。大学の文法中心の授業とは異なり、実際にドイツ語で先生とコミュニケーションを取ったり、ペアワークをしたりと、会話が中心の授業スタイルです。先生は海外の生徒を教える慣れているため、自分の伝えたい事が上手く言葉に出来なくても、辛抱強く待ってくれます。また、できない事を怒られるのでは無く、できた事を沢山褒めてくれるため、安心して授業を受けられました。私は必修第2外国語でしかドイツ語を学んでいませんでしたが、文法の基礎から一緒に学んでいくので、十分に授業についていく事が出来ました。先生は、美味しいレストランやショッピングモールなどの地元の情報をよく知っているのも、そういった話で盛り上がる事もあります!

次に、2つ目は、化学や生物、機械などの幅広い分野について学ぶ、エンジニアリングの授業です。基本的には、各分野の先生の英語による講義を聞く形式で進められます。基礎的な知識について取り扱うため、自分の専門外の話でも知識を深められます。私は、講義内容の全てを聞き取れたわけではありませんが、一緒に授業を受けている友達や先生に質問すれば、困ることはありませんでした。休憩時間には、お茶やクッキーなどを頂くこともあります! また、座学形式の講義だけでなく、振り子を扱った物理実験や、現地の学生と協力して取り組む細菌培養の実験なども行ないました。培養実験では、実際に大学の研究設備を使用でき、複数のチームに分かれて培養数の多さを競うので、楽しく実験に取り組むことができました。

大学が用意してくれたイベントは、週に2、3回あり、BBQや現地の動物園観光、カーレースなどがありました。また、丸1日を使って、マーストリヒトへのツアーに行ったり、製鉄工場の見学にいったりすることもあり、まるで遠足行くような楽しさがありました。どのイベントでも、現地の文化を体験したり、アーヘン工科大学の

学生と交流したりすることができ、とても楽しいです!

授業やイベントは、大体17:00頃には終了するので、アーヘン市内を観光することもできます。また、週末にはオランダやベルギー、イギリスなどの観光に行きました。各国の文化の違いを体験でき、とても有意義に過ごせました。

このプログラムは、長期留学が難しい方や、留学に不安を感じている方にこそお勧めしたいです。期間が3週間と比較的短く、上記のように内容が盛り沢山であるため、ホームシックを感じる間も無く、あっという間に終わってしまいます。私はこのプロ

グラムを通して、現地の方は思ったよりずっと話やすく、身振り手振りを交えた簡単なドイツ語・英語でも自分の意思を伝えられることを知り、自身の視野を広げられたように感じています。少しでも興味があれば、是非このプログラムの詳細や報告書を読んでみてください。



留学体験記

エコールサントラルナント(ECN) 2019年度 フランス語フランス文化研修プログラム派遣生
情報工学科 徳永 あゆみ（派遣時 学部2年）

このプログラムは春休みの6週間フランスのナントでÉcole Centrale Nantes(通称ECN)でフランス語やフランス文化について学び、ホストファミリー家に滞在して現地の生活を体験するものになります。私はフランスが大好きで元々フランス語を学んでおり、フランス旅行にも行っていました。旅行では経験し得ない、フランスの学生生活や日常生活、習慣に興味を抱き、また、沢山会話をしてフランス語力を向上させたいと考え参加しました。

ECNの授業は大まかに講義と課外授業の2つに分かれます。講義では文法、慣用句の表現、感情や動作、美術、衣食住等に関する単語を学びました。単に暗記するのではなく、ゲームや劇を通して活用しながら覚え

ます。先生が「調べずに分かるまで何度でも聞いて下さい。辞書にはない、口頭で説明する際のニュアンスが大切です。」とおっしゃったのが印象的でした。先生方は皆優しく親身に指導して下さい、中には日本語を勉強している方もいらっしゃいました。

課外授業はナントの街散歩、ブーランジェリー・パティスリー体験、チーズ&ワイン会、高校生との交流、グランド塩田やモン・サン・ミッシェルへの遠出などがあり、フランス文化や風習について学びました。行く先々でフランス語の詳しい解説をして下さり、研修生にとってはやや早口でしたが必死に聞き取り、少しでも理解できると嬉しく感じました。また、直前の講義で事前学習として関連する言葉を教わるので、習った言葉が使用される格好の機会にもなりました。

放課後は自由時間になり、研修生とダブルディグリーでナントにいらっしゃる慶應の先輩方やECNのクラブ・ジャポンの学生とでナントの街巡りをしました。郊外にあるショッピングセンターは日本では見られないほど非常に大きくて驚きました。また、夜にはバーで飲んだり、スケートをしたりして、出会ったばかりとは思えないほど親密に過ごすことができました。研修生の中にはダブルディグリー留学生を目指す人もいて、先輩方の体験談やアドバイスを聞いて今後の参考にしていました。

ホームステイは3週間交代で1人当たり2世帯にお世話になりました。どちらの家庭も非常に優しく、フランスの家庭料理を振舞ってくれたり、休日は買い物や遠出に連れ出して下さったりしました。夕食前後はリビングでホストファミリーと歓談する時間を作るように心がけました。話題は学校で習ったことや翌日の予定、フランスと日本の文化の違い、コロナウィルスの流行状況など様々で、できるだけ理解できるように、分からないときは繰り返し、ゆっくり話して下さいました。他にも、ホストマザーの実家にお邪魔したり、ボードゲームで遊んだりと本当の家族のように楽しい時間を過ごしました。

本来は6週間の研修ですが、コロナウィルスの影響で最後の1週間が突然なくなり、5週間に変更されました。研修の最後に行われるイベントで、日本の文化を広め、お世話になった方々に恩返しをする、ソフレ・ジャポンの開催できなかったことは心残りです。当時、フランスはウィルスが流行り始めた頃で、ナントには感染者がいませんでした。ところが、研修終了を言い渡された数日後にはフランス全域で外出制限、渡航規制が施行され、状況変化の迅速さにも文化の差異を感じました。その際、皆が無事に帰国できるよう心配し、尽力下さった方々には感謝しきれません。

研修を通して、留学ならではの現地の生活を体験し、フランス語での意思疎通に挑戦し続けました。そして研修生同士の仲が深まり、フランスに友人や家族ができました。最初は何を話しているか分からないことが多々ありましたが、徐々に理解できることが増えて成長を実感しました。フランスに興味がある人は有意義な経験になること間違いのないので是非参加してみてください。



留学体験記

SAF 海外大学サマーセッション短期留学 2019 年度 UC パークレー校派遣生
物理情報工学科 上原 花織 (派遣時 学部 3 年)

私は 2019 年の第二クォーターを利用してカリフォルニア大学パークレー校に短期留学しました。留学を決定するにあたり様々な不安がありましたが、留学を決定した動機、そして留学での生活、留学から得られたことを紹介したいと思います。

高校から英語があまり得意ではなく、英語で話す機会があればいつも不安を感じていました。理系になれば英語の使用頻度がなくなると思い込んでいた大学 1 年の私に転機が訪れたのは、学科決めでした。物理情報工学科のホームページを見て、理系だからこそ海外に認められるための英語力が必要であることを痛感しました。それ以降 1 年以上オンラインの英会話を続け、自分の話で相手に笑ってもらえるぐ

らいの英語力がついてきて、自分にはなかった発想を共有できることの楽しさ、苦手だったことを克服しようと努力している自分を実感しました。二年生の前期に渡された SAF のプログラム冊子を見て、二か月の比較的短い期間で、現地の学生と同じ授業を受けられる機会はめったにないと思い応募しました。将来の選択肢を広げるために英語に対する不安感を軽減させ、あえて自分に負荷をかけてどこまで自分の実力を伸ばせるか試すことがこの留学の目標であり、私のモチベーションでした。

半年ほどの準備をし、初留学。海外は台湾しか訪れたことがなかったので、アメリカでの生活はとても新鮮でした。肌の色や多様な言語、すべてが自由で型が決まっていない独特な雰囲気は初日はどうなってしまうだろうと思いました。しかし、そんな不安を考える暇がないほど現地での授業はとても大変でした。私は量子力学と実験、オンラインの英語の授業を受講していました。実験は週 5 回、講義と実験をし、毎週 1,2 回のレポート提出をしました。実験はペアで行い、現地の生徒と協力して行いました。ペアとは運命共同体なので、毎日密に連絡を取り合い、とても仲良くなりました。更に現地の学生は専攻を複数持っているため、とても刺激を受けました。量子力学では、週 4 回講義とディスカッションをして、週 2,3 回の課題提出をしました。課題内容は量子力学の応用問題でしたが、毎回積分や微分の計算が複雑で、物理だけでなく数学の能力も向上しました。ディスカッションでは、生徒と TA が議論する時間が設けられていたので、課題や授業中にすぐ質問できたので疑問点を残さず先に進むことができました。

留学を通して言語力が向上し、専門的な知識が増え、視野が広がりました。それ以外に留学で得られたことが大きく 2 つありました。1 つ目は、自分だけで何かをすることに抵抗がなくなったことです。アメリカはすべてが自由でしたが、同時に行動には責任が伴います。更に生徒の自主性を重視されるため、常に自分で考え行動する姿勢が身につきました。2 つ目は、現地で仲良くなった友人です。実験は平日毎日行われたため、ほとんどの時間を一緒に過ごしました。彼らは英語に不慣れな私たちのために夜遅くまで勉強を教えてくださいました。土日は中国人のルームメイトとサンフランシスコに買い物に行ったり、寮で自分たちの国でよく食べていた料理をお互い作って食べたりし、文化交流もできました。今でも彼らとは連絡を取り合い、今後もこの出会いはかけがえのないものになると思います。

最後に、留学後半は睡眠時間が 4 時間になってしまうことも多々あり、心が何度も折れかけました。それでも今思い返しても、お金や時間に代えられないとても貴重な経験、そして留学を乗り越えたという大きな自信になりました。不安を抱えた自分を励ましてくれた友人、常に全力でサポートしてくれた家族と SAF には感謝してもしきれないです。本当にありがとうございました。



留学体験記

ミラノ工科大学 2021 年度 交換研修派遣生
開放環境科学専攻 西堀 里奈子 (派遣時 修士 2 年)

※コロナ禍のため留学が一年延期されましたが、原則修了する最終学期の留学は認められていません。

「いつか絶対、留学に行く。」そんな幼い頃からの夢が叶ったのは、修士 2 年の秋学期に参加した交換研修でした。私は 10 月から 1 月までの約 3 ヶ月間、イタリアのミラノ工科大学に交換留学生として建築を学びに行きました。通常は修士 1 年で参加するプログラムが、新型コロナの影響により 1 年延期され修士 2 年での留学となったため、異国で修士論文を執筆するという無謀な挑戦となりましたが、「今しかない」と思い切って参加を決意しました。

ミラノ工科大学は工学・建築学・デザインの 3 学部から成り、計 3 つのキャンパスがあります。私はその内のレッコキャンパスに通っていました。レッコは、ミラノから電車で 40 分の好アクセスの立地にありながら、周囲を湖と山に囲まれた、自然豊かで過ごしやすい街です。休みに湖畔を散歩しながらイタリアの国民食とも言えるジェラートを食べることが、何よりも至福の時間でした。

学業面では、建築構造系の研究室に所属し、教授のもとで実験を行っていました。研究室のグループに参加し、コンクリートに荷重を加え、ひび割れを計測するという実験を同僚と共に行うことで、建築について海外の学生と話し合うという貴重な経験ができました。また、そのような場で飛び交う会話の中には、知らない英単語が頻出します。それを帰ってすぐに調べることで、高校生の頃は何度も英単語帳を勉強しても覚えられなかったのに、一度調べただけですぐに頭に定着するという不思議な体験をしました。これは、外国人と英語で話したという情景と、その時に疑問に思った英単語がセットで記憶から呼び起こされることで、頭に残りやすくなるためかと思います。この経験から、実際に英語で対話することの大切さを肌で感じるすることができました。

そして、この留学で最も印象に残っていることがあります。それは、寮のキッチンで友人と話したり料理を作った思い出です。キッチンは共用のため、夜 8 時頃になると多くの学生が集まり一斉に夕食を作り始めます。日本食を作っていると学生たちが珍しそうに覗き込んできて、「What are you cooking?」と話しかけてくれるため、多くの新しい友人と知り合える場がこのキッチンでした。また、寮に住む学生の半数以上がイタリア国外からの留学生のため、皆、料理が出来上がると「Take it! Take it!」と言ってくれ、各国の伝統料理を食べる機会にも恵まれました。一日の終わりに様々な国の料理を囲んで、その日の出来事や他愛もない話をする時間が、何よりも楽しく幸せな時間でした。留学をしなかったら絶対に出会えていなかった国の人々と話し、あらゆる文化に触れることで、自分の知らない世界はまだ沢山あると感じ、もっと知りたいという好奇心がどんどん大きくなっていきました。

留学は異国の地で一から生活をスタートし、言語が通じないような場面や苦しい場面も時にはあります。しかし、そのような環境に身を置からこそ得られるものも計り知れないです。中でも、この先もずっと繋がっていたいと思える友人たちと出会えたことは、この留学で得た、何にも代え難い人生の財産です。わずか 3 ヶ月



の留学でしたが、3 ヶ月とは思えないほど多くの場所を訪れ、多くの人々に会い、多くの文化・価値観に触れることができました。その度に、今まで自分が知っていた世界はこんなに小さかったのだと思い知らされるのと同時に、改めて母国・日本の良さを感じることもできました。「英語は鏡」と中学校の英語の先生から教わったことがありましたが、初めてその意味を知れたような気がします。留学を経て、将来進む道が大きく変わることはないかもしれませんが、自分の中にある考えや価値観は間違いなく広がり、きっとこの先の人生の糧となるはずです。これこそが留学の醍醐味であり、学生だからこそできる一生ものの経験だと強く思います。